

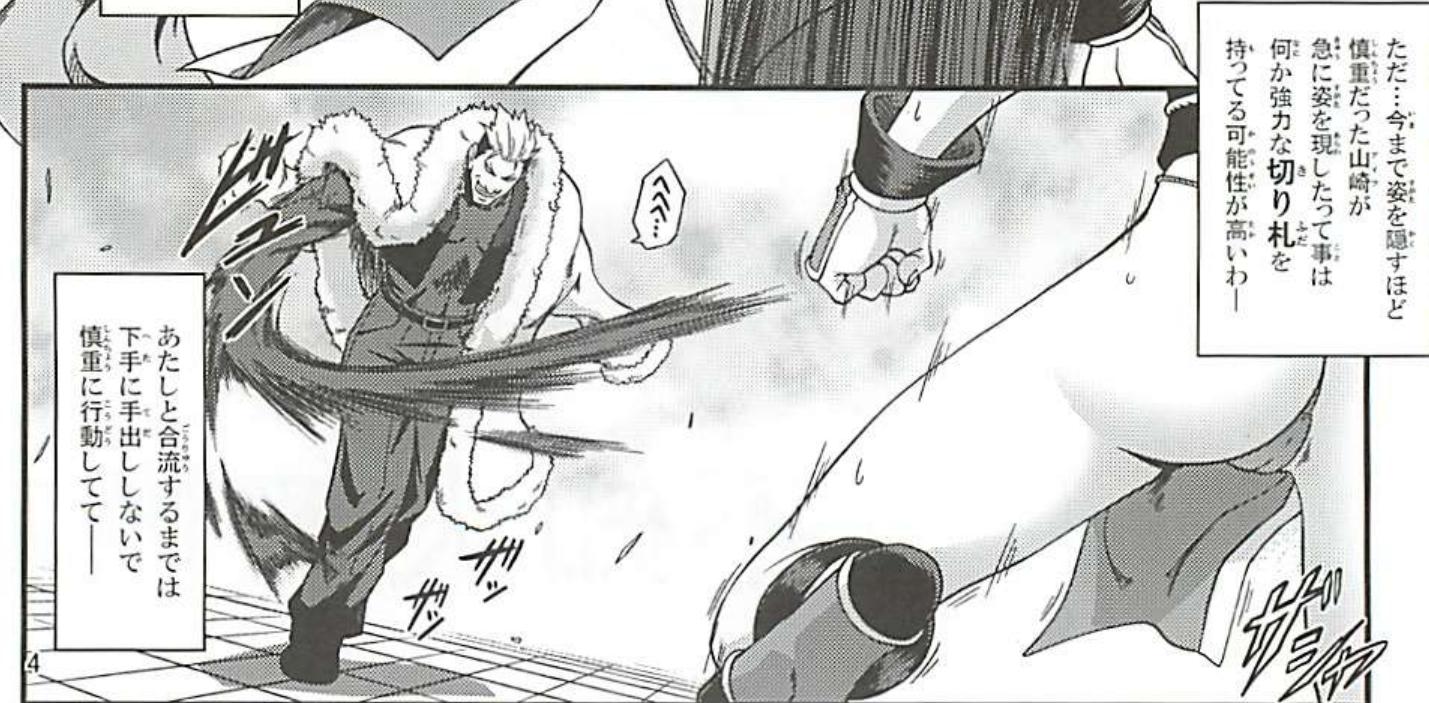
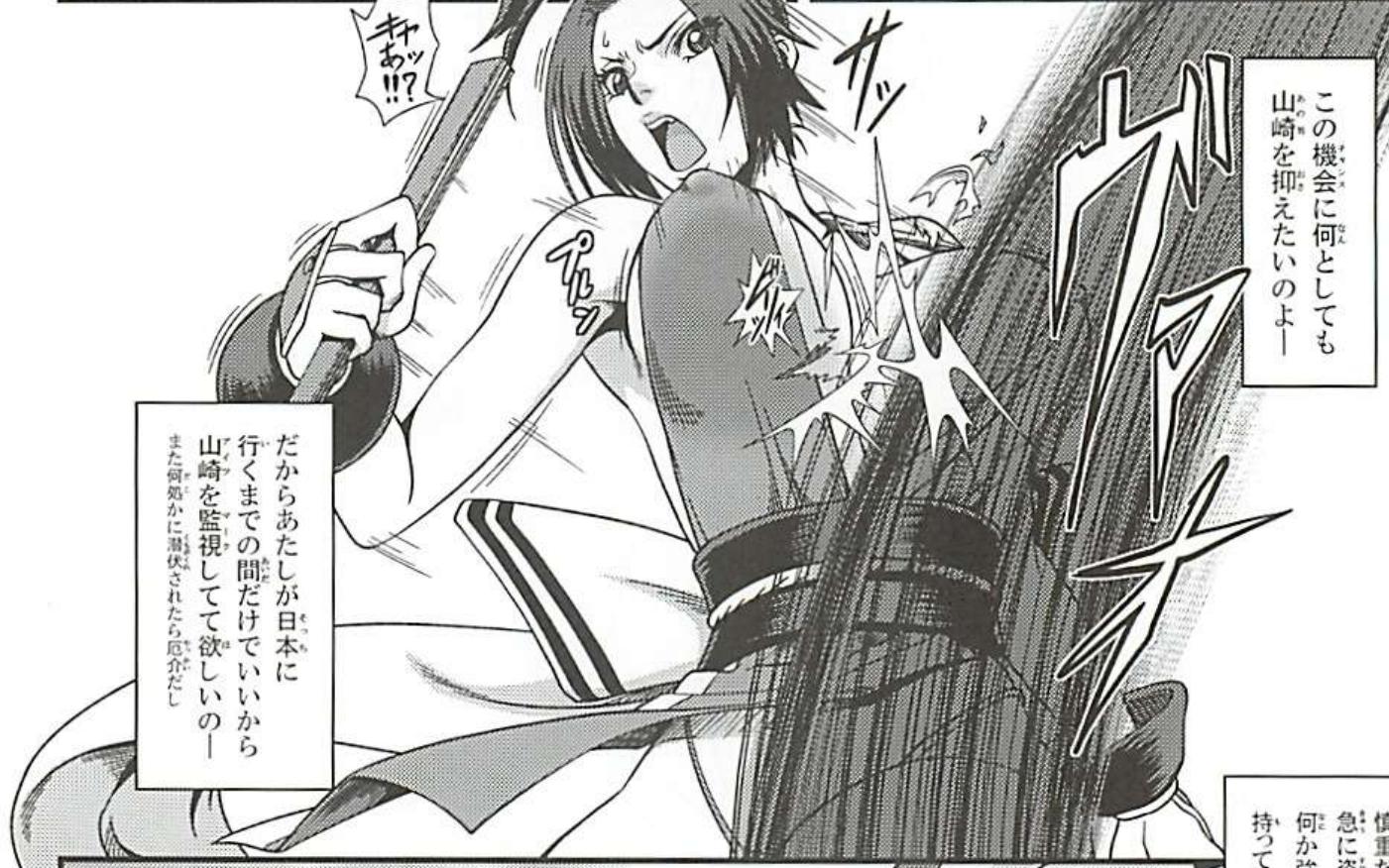


不知火舞 慢慾2

成人向



不知火無慚2



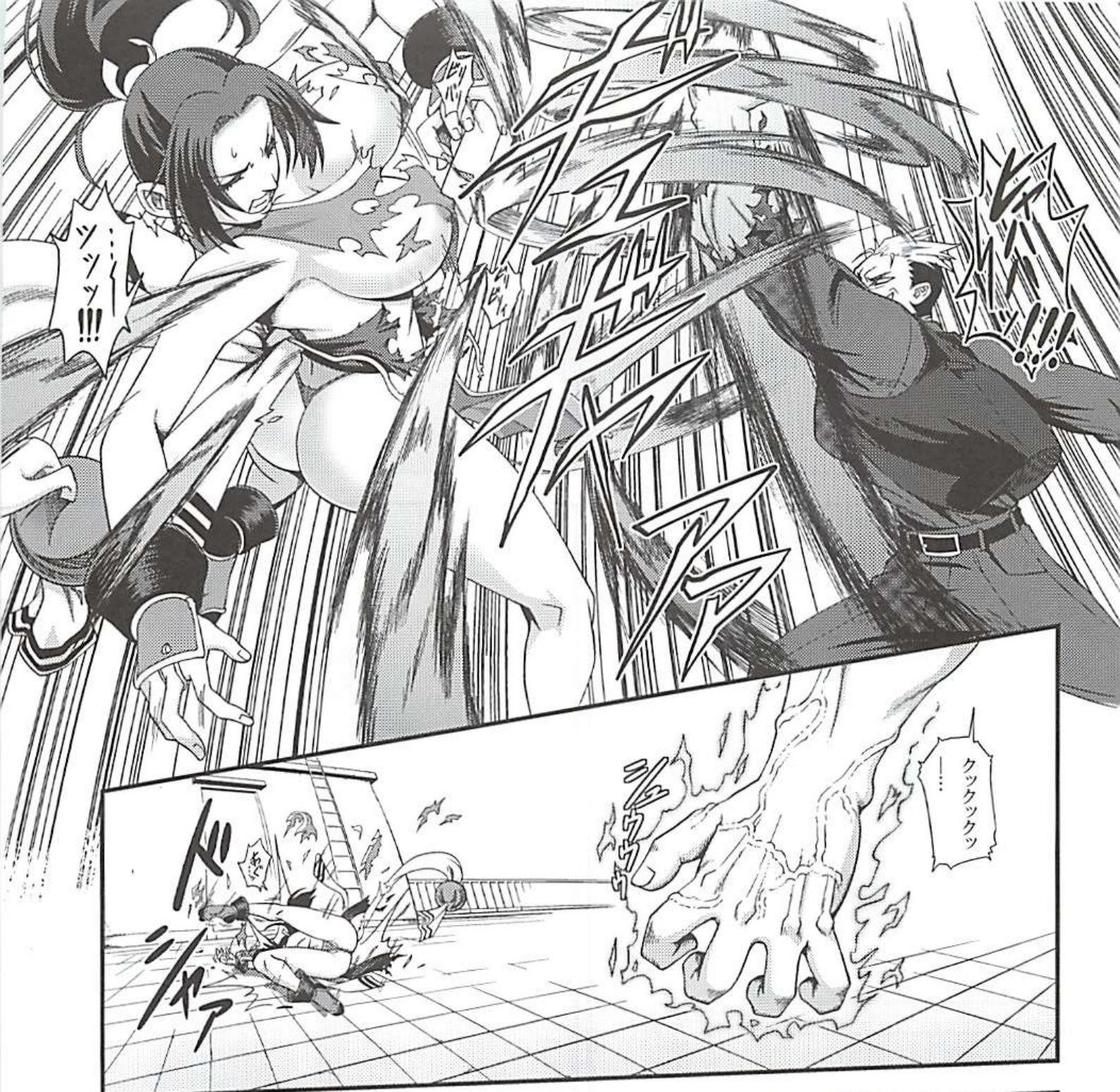




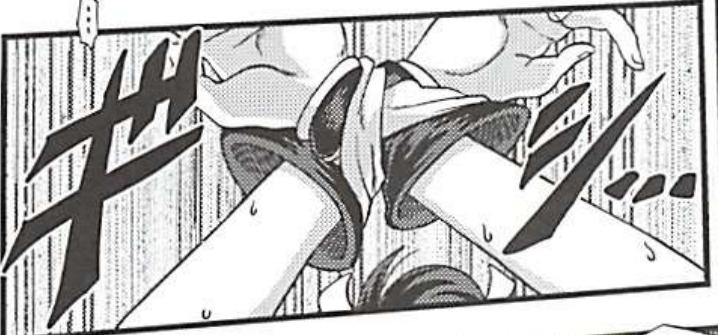




超必殺技が
左手一本で…





















自白以外の会話には
聞く耳どころか
一息つく間も与えないと
気なの…ねー！



こいつ？!







あたしの削る力を
全て削いだと
思い込んでー…

あんたが間拔面
晒しながら
近付いてくるのを

思ひ知ったか！

陽炎の舞

調子に乗りすぎて
高いおさわり代になつたわね！

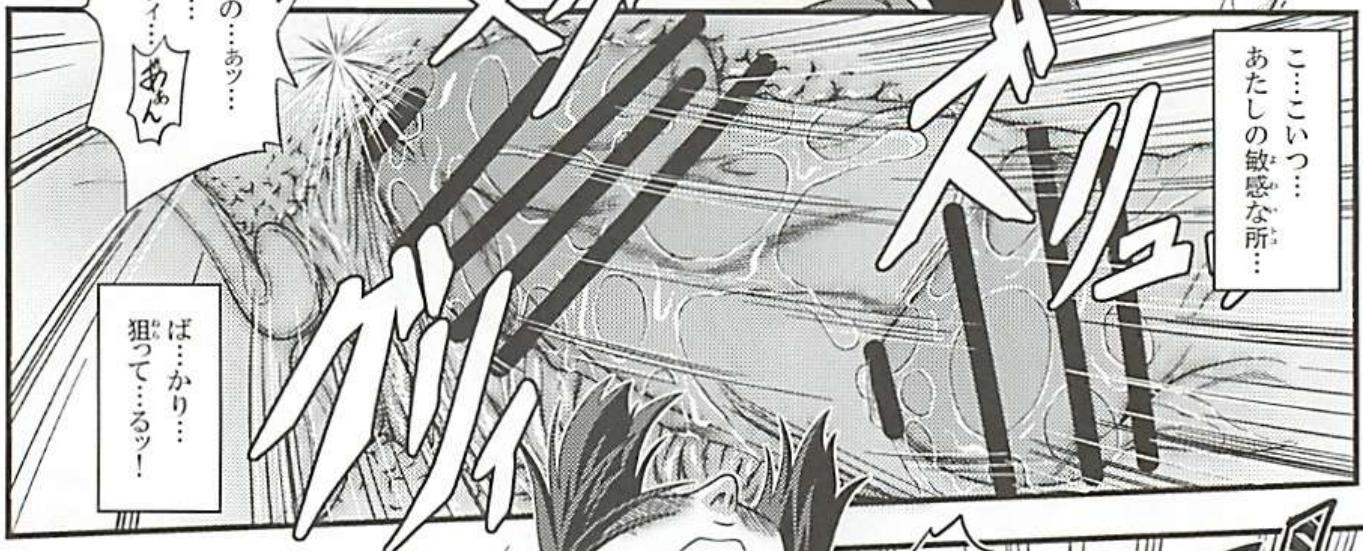
炎を使役する
不知火流の真髓！

猿みたにやることしか
考へてないから
こんな目に遭うのよ！

かなりヤバかったけど
勝った！！









ハハハ！
そーかいそーかい！

足止め…くらいは
しない…と…

んはがッ
足止め…くらいは
しない…と…

それじやその粗子ンに
失神されない様に
踏ん張つてろよお…

ど…どんな事が…あつても
隠…依頼…人の…事は
隠し…通して…

マ…マリーさんに
逢わ…す顔が無…い

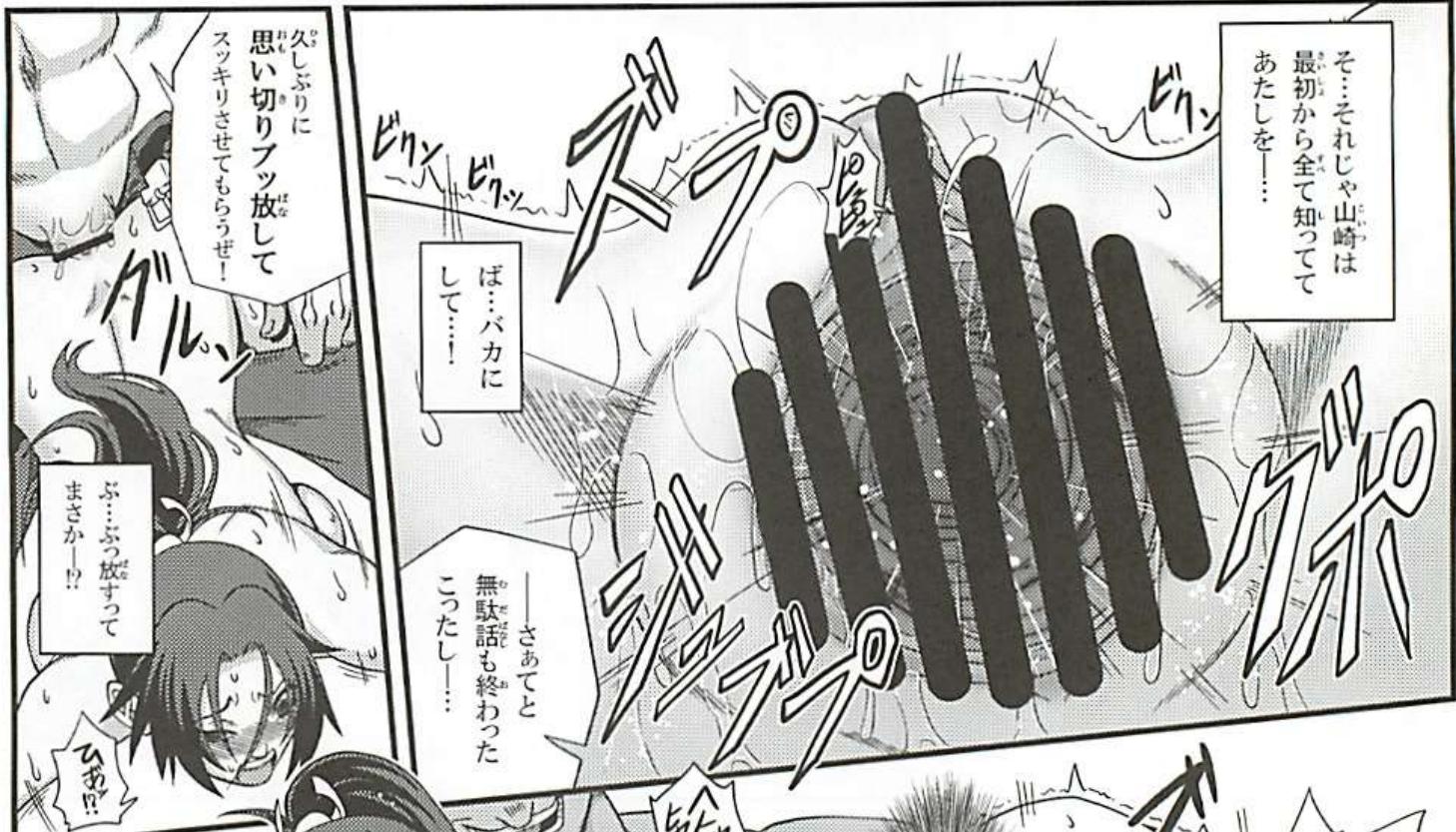
な…何とか…
もう少…し…

B・マリーが
友達

来るまでなあ…!!!

!!?





絶イ

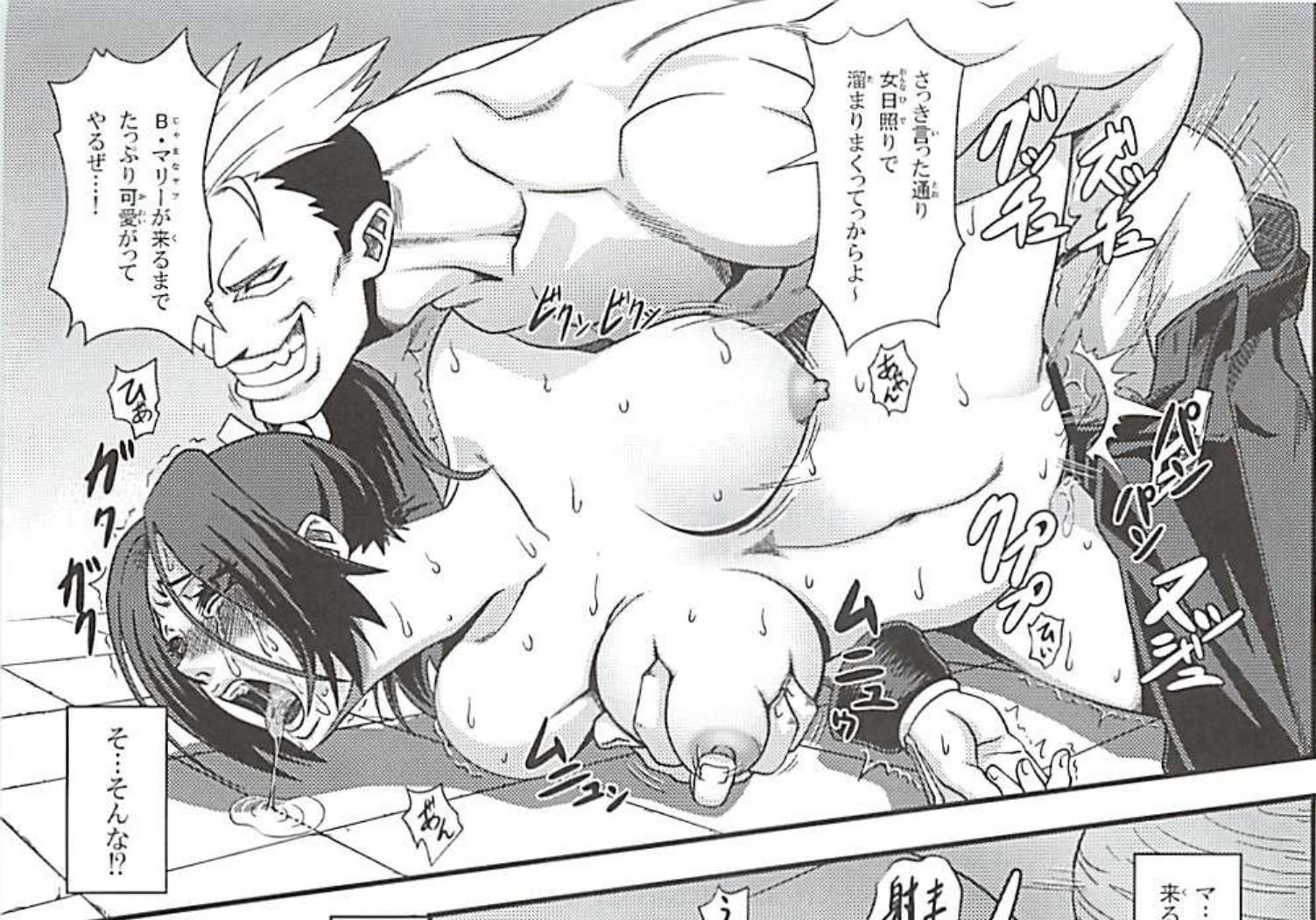
シカシ

ア

頂ク
ウウツツツ







---ご挨拶とあとがき---

初めましてこんにちは、トンボと申します。

この度は「不知火無慚2」を手にとって頂きありがとうございました。

とりあえず今回は「手描き感」が少しでも出るように試行錯誤してみましたが、効果あったのかな…と、このあとがきを書いてる時点で不安が一杯です(プリンターが無い環境なので確認できない)。

内容に関しましては、あまり見かけない(と思う)山崎vs舞でしたが、いかがだったでしょうか?

尚、今回山崎のコスチュームを(不評だった?)KOF97版の物にしてあります、

中身的には餓狼山崎で描かせてもらっています。

理由としては狂気面ばかりが強調されたKOF版より、目的の為に色々工作しながら暗躍する
冷静さとズル賢さを持つ餓狼山崎の方好きでしたので、性格的な部分は餓狼山崎を取り、
そういう性格ならばシャツ1枚の餓狼より、ちょっとだけオシャレしてるKOFの方がいいな…
という判断からです。

ついでに細かい部分を補足すると、山崎の特徴である因縁深い「右手」「左手」に関しては、
オフィシャルでは時々で変わってますが、ウチでは漫画の構図的に便利な「左手」を採用し、

「左手」の存在もあくまで「本気」を意味する程度に押さえ、「暴走」に関しては省きました。

でないと、エロシーンも「左手」をポケットに入れっぱなしにしないといけなくなり、

流石にそれは描くのが厳しいので(苦笑)。

あとは本来胸板に刻まれてる「傷」を描かなかつたのは…作業がかなり進むまで気付かなかつたからです。
ちなみに、本当はB・マリーもチョイ役ながら登場させて山崎と対峙させる予定でしたが、
ページも時間も無くなつてこの様なオチで終わつてしまつた…無念。

とりあえず、前作と今作では全くお話的には繋がつませんが、もし3作目を描くなら、
前作と本作の話を繋げてみるのも面白いかなと思つたり、舞への責め方も少し角度を変えてみたいな
と思つたりしています。いつ世に送り出す事が出来るか予定は分かりませんが、
もしさたこの「不知火無慚」シリーズを目にする様な事があれば、手にとってもらえると光栄です。

それでは乱筆乱文失礼しました。

サークル德利屋 トンボ



最愛の妹を守る為、戦巫女はその身を淫敵に捧げ
陵辱に塗れながら反撃の好奇を待つのが…



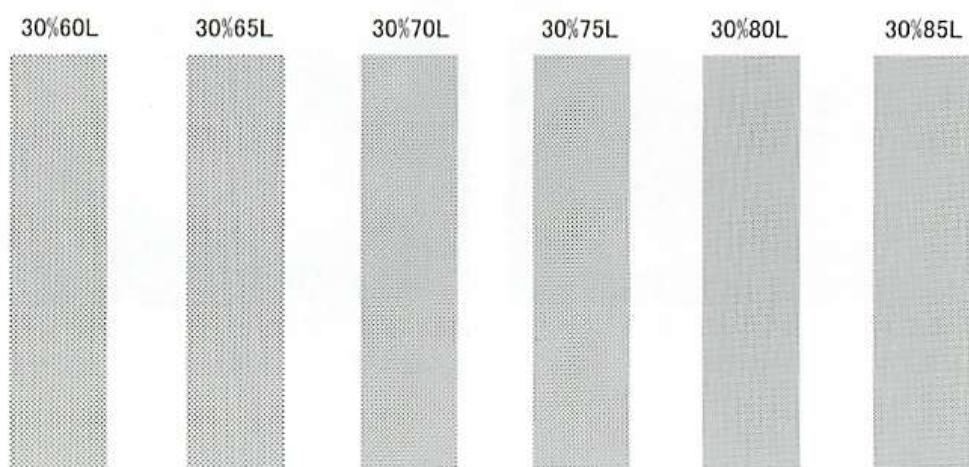
淫敵に挑む戦巫女。絶望的な実力差の前に聖なる力を
生み出す羽衣は引き裂かれ、抗う術を全て奪われうのだが…



KOFで初戦敗退してしまった女性格闘家チーム。舞は敗者復活戦を
持ちかけられ無名の格下相手とたかをくくっていたのだが…

■既刊情報■

どちらのあなた様にて委託販売中です。



——奥附——

- 18歳未満の閲覧禁止
- インターネット上の公開、及びアップロードの禁止
- 無断転載、複製の禁止

発行 徳利屋
発行者 トンボ
サークル情報ブログ http://pixiv.cc/tokkuri_ya/
MAIL zundamochi00@yahoo.co.jp
印刷 ねこのしっぽ様



B・マリーから山崎竜二の追跡調査を依頼された不知火舞だったが、その尾行（動き）は山崎に見抜かれ、止む終えず戦う事に。不可解ともいえる山崎の圧倒的な力の前に抵抗虚しく打ち伏せられる舞を更に尋問という名の陵辱が襲う。

不知火恋慟2

成人向

発行 徳利屋